

ネパールでの日本語教育に協力

ネパールの首都カトマンズの学校「バグマティカレッジ」が来月2日、現地に日本語教育センターを開設することになり、その制度設計に三島市のNPO法人「グラウンドワーク（GW）三島」が協力している。高度な日本語能力を身に付けた若者が日本の学校に留学し、帰国後、母国で起業する仕組みの構築を目指す。若者によるネパールの産業振興を図る狙いがある。

(佐久間博康)



シュトラ理事長と渡辺豊博さん（左から2人目）ら
=いずれもネパール・カトマンズ市で

三島のNPO 制度設計

GW三島によると、ネパールの公務員の月収は三万円程度。現在、日本への留学を目指す若者の多くは、借金して母国の日本語学校や派遣業者に百二十万~百五十万円を払い、基本レベルの日常会話を学んだ後、日本の語学学校に出稼ぎ目的で留学するという。語学力が不十分なため、専門技能が身に付かず、仕事は単純労働中心で困窮することが多いとされる。

こうした状況を打開しようと、バグマティカレッジの日本語教育センターは、ネパールで初めて、日本語

能力試験の認定で最難関のレベルの取得を掲げる。出稼ぎではなく実りのある留学を促す。

センターには、日本の中学から高校一年に当たる七~十一年生が対象の「中高一貫コース」と、高二、三年に当たる十一、十二年生が対象の「留学コース」を設置。「中高一貫コース」は、日本語能力試験の難関レベルの取得を目指す一方、GW三島の協力を得て三島市内で一カ月ほど海外研修を行い、農業や環境保全の手法を学ぶ。「留学コース」は、定員が各学年五十人で、最



日本語教育センターが開設されるバグマティカレッジ

ネパールから日本に来る留学生 1996~2006年の内戦が終結した後の政治的混乱、2015年の大地震からの復興が遅れた影響で産業が発展しておらず、出稼ぎ目的で日本に留学して就業を目指す

す若者が多い。昨年5月の日本学生支援機構の調査では、ネパール人の留学生は中国、ベトナムに続く2万4331人で、全体の8.1%を占める。13年5月の調査と比べ4.18倍も増えている。

出稼ぎ排し「実りある留学」へ

難関レベルを取得して日本の大学や専門学校への留学を目指す。

センター設置に合わせ、バグマティカレッジのシュトラ理事長(左)が起業支援を目的にしたファンドを創設。日本で専門的な技能を身に付けて帰国した若者を後押しする。

GW三島による協力は、二〇一六年にネパール大地震の復興支援で現地を訪れた際、政府や学校の関係者らから依頼を受けたのが縁だった。教育プログラムの運営では、ネパール・日本友好協会(事務局・山梨県大月市)とも連携している。

GW三島の渡辺豊博専務理事(左)は「体制の整備や日本語教師の確保など課題はある」とするが、「ネパールの活性化に寄与する人材を育成し、日本とネパールが良い形で交流できるようにしたい」と意気込む。

シュトラ理事長は「言葉の障害を取り払い、発展的な人材育成システムを創り上げたい。GW三島では環境再生の成功モデルを学ばせたい」と話す。

